The Japanese Orthopaedic Sports Medicine

# 日本整形外科スポーツ医学会ニュースレター

No.6 2005年６月15日発行

## ■ようこそ奈良の第３１回日本整形外科スポーツ医学会学術集会へ■

会長　高　倉　義　典

第31回日本整形外科スポーツ医学会学術集会を平成17年７月１日（金），２日（土）の両日，奈良市の奈良県新公会堂にて開催させていただきますことは当教室ならびに同門にとりまして大変光栄に存じます．

昨年のアテネオリンピック大会における日本の好成績，野球やサッカーを中心とするプロフェッショナルスポーツの近年の隆盛，超高齢化社会を迎えての成人病予防や老化対策としての市民スポーツ熱の高揚などにより，国民のスポーツに対する関心は益々高まってきています．それと平行してスポーツ外傷や障害に関する一般人の医学的知識も向上し，それらを扱う整形外科医の更なる専門知識の修得と適切な治療や予防が要求されるようになってきました．最近ではスポーツ傷害を主訴として来院する患者の増加とともに，さして規模が大きくない地方のスポーツ大会においても，スポーツドクターの派遣依頼の要請が増加してきています．このような状況下において，科学的なトレーニング法の研究や各種のスポーツ傷害の治療や予防のために，整形外科医の果たさねばならない役割は益々重要なものになってきています．

そこで，今回の学術集会では「スポーツ傷害に対する専門的知識の確認と向上」，小子化と高齢化に対応するための「発育期と成人期のスポーツ傷害の予防」に重点をおいて演題を応募いたしました．お陰をもちまして，167題の応募演題があり，依頼演題38題を加えると200題を越す近来にない多数の演題数となりました．その結果，抄録集が厚くなって持ち運びにご不便をおかけするとともに，４会場を二日間すべて使用することになり，少々窮屈なスケジュールになりましたことをお詫び申し上げます．

詳しいプログラムにつきましては抄録集に譲りますが，若い整形外科医の参加が多い本学会のために，腰・肘・膝関節の代表的なスポーツ傷害に対する手術手技実践講座や，肩および足関節の関節鏡プラクティスを企画しましたので，実際の手技を研修していただけると考えています．

同時に第１日目の夕方「第７回スポーツ用装具を考える会」や会場の庭園での「会員懇親会」（雨天の場合は館内で），学会の翌日の７月３日（日）には日整会のスポーツ委員会主催の「認定スポーツ医資格継続のための研修会」が同じ会場で開催されますので，これにも参加していただきたくお知らせいたします．

あいにく７月は梅雨のシーズンで鬱陶しくはありますが，学会参加の機会に世界遺産の奈良公園，薬師寺や唐招提寺の西の京界隈，法隆寺を中心とする斑鳩の里，少し足を伸ばしていただき飛鳥路や，昨年度に世界遺産に登録されて注目されています熊野古道などを散策していただけると思います．

どうか多くの先生方にご参加いただきたくお待ちいたしております．

# 理事長に就任して

聖マリアンナ医科大学　青　木　治　人

昨年，2004年７月に，日本整形外科スポーツ医学会の理事長に推挙されました．

本学会は当初，スポーツ選手の怪我の治療に主力を置かれていた先生方が，国内で東と西に別れて同好会的に集まって出来た研究会が合同，発展して学会となったものであり，初代の高澤理事長から，井形前理事長に引き続がれ，現在に至っているものです．先人の努力によって築き上げられてきたこの学会を更に発展させる事が私に科せられた責務と考えています．

さて本学会も発足後，すでに31年を迎えようとしています．その間，スポーツと医学との関係は大きく変化してきています．スポーツにおける医学のサポートの重要性はすでに社会的に広く認識されてきていますし，スポーツ医学に興味を持つ若い医師も増えています．また，いくつかの整形外科関連の部位別専門学会や，各区域での総合的な学会では，必ずと言っていいほどスポーツに関するセッションが組まれている事を見ても，スポーツ医学に対する関心の高さは伺えます．さらに，日本整形外科学会認定スポーツ医の数はすでに3,000名以上になっています．にもかかわらず，これが直ちに本学会の活動の活性化につながらないところに問題があると考えます．本学会会員数，学術集会参加者数は頭打ちですし，学会誌への投稿論文数は減少の一途です．これらの問題点を再確認したうえで，本学会を如何に再活性化させるかを考えたいと思います．

まず，学会活動を円滑に行うための財政の確保，会員数の増加，学術集会への参加者の増加，機関誌への投稿論文の増加，国際活動の活性化を図らなければなりません．これらは，どれをとってもおろそかには出来ず，かつ急を要する問題ばかりです．また，整形外科スポーツ医の専門性を社会的に知らしめる事も，本学会が中心となって行わなければならないと考えています．

まず，会員数の増加に関してですが，幸い現在多くの地域で地方会的にスポーツ医学に関する研究会が行われています．これらの研究会の成果をまとめる役割をするのも本学会にとって必要な事でしょう．すなわち，現在の草の根運動のまとめ役を果たす，というわけです．そのために，メンバーシップ委員会，会則等検討委員会を立ち上げました．これは会員数の増加，学術集会の参加者の増加にも繋がるでしょうし，機関誌への投稿論文数も増える効果があると信じています．

また，スポーツ整形外科医の専門性の認識度を高めるためには，日本整形外科学会認定スポーツ医のシステムと密接に連携する必要があります．幸い，今年度から，認定スポーツ医の再認定の研修会を，本学会学術集会で行えるようになりました．整形外科学会が認定するスポーツ医に対する，本学会の関与の第一歩と考えます．さらに，従来から行われている，高校生，大学生に対するスポーツ医学の研修会も重要です．これは何も，将来，すべての人にスポーツ医を目指してもらおうというのでなく，彼らがどの道に進もうとも，スポーツに関係する者になったならば，選手の怪我に対しては整形外科医の専門家が治療する事が重要である事の認識を持ってもらう事です．もう一点，忘れてはならないのは，スポーツ医の活動の場の確保です．今後は，スポーツ医が積極的に地域社会，あるいは学校，ないしはスポーツ団体に関与できるように，本学会でも日本整形外科学会と連携して，働きかけて行きたいと考えています．

また，国際化，といっても人の交流だけではなく，本学会における研究成果が国際的に高い評価を得るために，学会としても努力する事も必要です．研究成果の発表を研究者個人に任せるのか，あるいは学会として側面から援助できる事は無いか？などです．そのためには，本学会そのものが国際的に評価されなければなりません．より質の高いジャーナルとの提携等が可能かも検討したいと考えています．この目的の達成と，現在の学会誌のあり方と矛盾しない方法があるはずです．

以上，理事長としての所信を幾つか述べさせていただきました．本学会には多くに委員会があります．解決すべき問題が生じるとその都度，委員会が出来ます．しかし，今後は各委員会が独自に動くのではなく，相互に連携しないと今まで申し上げてきた問題は解決しません．会員数の増加には，広報委員会，メンバーシップ委員会，会則等検討委員会，教育研修委員会などが密接に連携しなければ効果は上がりません．学術検討委員会も，学術集会会長とともに，学術集会のあり方にも関与していただきたいと考えます．編集委員会も，投稿論文数の減少を食い止めるための方策を，広報委員会など，他の委員会と連携しなければなりませんし，国際委員会とも同様に連携しなければなりません．社会保険委員会は，スポーツ整形外科医の診療の専門性を認知してもらうために日本整形外科学会と連携をとっていただいています．本学会の今後の発展は，各種委員会が如何に有機的に連携し，かつ，それを外部に発信しうるかに係っていると考えます．

多くの役員，評議員，会員の先生方の御理解と御協力をお願いします．

# 常任理事に就任して

北海道大学大学院　安　田　和　則

30年の伝統と1900名を数える会員数を擁する日本整形外科スポーツ医学会の常任理事という大任を拝命し，大変光栄に存じますとともに責任の重さを痛感しております．本邦の整形外科学領域においてスポーツ医学の重要性がまだ十分には認識されていなかったと思われる1975年からの約四半世紀において，本学会は「整形外科領域におけるスポーツ医学並びにスポーツ外傷と障害の研究の進歩・発展を目的とし，スポーツ医学の向上とスポーツの発展に寄与する」という目的を掲げて，本邦のスポーツ医学分野および整形外科学分野の発展に大きく寄与してきました．そして次の四半世紀に入った現在，本学会を取り巻く国内および国外の状況は大きく変わりつつあります．我々は今，整形外科スポーツ医学会の使命と将来像をもう一度，検討し確認する時期にさしかかっているのではないかと思っております．私個人はまったく浅学非才かつ微力ではありますが，理事長，理事，評議員および会員の皆様と共にこの問題を考え，整形外科スポーツ医学会の発展に少しでも貢献できるようにできる限りの力を尽くす覚悟でおります．どうかご指導の程，宜しくお願い申し上げます．

## 理事ごあいさつ

九州大学大学院　岩　本　幸　英

スポーツ医学の対象には，トップアスリートだけではなく，年齢や性を超えたすべての人々の運動や身体活動が含まれます．また，スポーツ医学の現場としては，病院だけでなく，実際にポーツが行なわれるグラウンドやプールなどが含まれます．したがって，スポーツ医学会は，幅の狭い研究を限られた医師集団だけで展開するのではなく，すべての人々にわかる研究内容を一般の人々やスポーツ指導者に向けて発信すべきだと思います．また，スポーツ障害・外傷の予防に力を注ぐことも重要だと思います．スポーツで怪我をして来院した人々を治療するだけでは，単なる外傷の治療にすぎません．どのような内容のトレーニングや環境の整備が怪我の防止につながるのか，社会に向けて自信をもって発言できるようになりたいものです．私は，本学会における活動を通じて，最終的にはわが国の整形外科医が国民にいっそう信頼される存在になれるよう，微力を尽くしたいと思っております．

---

神戸大学大学院　黒　坂　昌　弘
広島大学大学院　越　智　光　夫
（国際委員会 担当）

2004年度は，国際委員会としてGOTSおよび日韓整形外科スポーツ学会などとの連携を含め，積極的に交流を深めるべく活動してきました．具体的には，2004年9月18日から約10日間に渡り，GOTS，およびESSKAの両方の組織からの8名のTraveling fellowを受け入れ，日本の各地の施設に受け入れをお願いし，学術交換を行うとともに国際的な親睦を深めました．

また，2005年4月3～7日にわたって，米国フロリダ州のHollywood市で行われたISAKOSに積極的に日本から参加を頂き，アメリカ，ブラジルに次ぐ第3位の出席者数となりました．実質的にISAKOSは国際学会としては，最大規模の学会になっているため，今後も日本からの会員数を増加させ，日本の先生方の認知度を高めるべく努力して行く予定です．従来から行われてきた日韓整形外科スポーツ医学会に関しては，2006年6月8～10日に行われる，日本整形外科スポーツ医学会と，日本関節鏡，膝の合同学会，（JOSKAS; Japanese Orthopaedic Society of Knee, Arthroscopy and Sports Medicine）の際に，韓国からの積極的な参加を呼びかけています．また，この合同学会には韓国のみならず，アジアパシフィック領域を中心に多くの国際的な参加を呼びかける予定であり，日本を中心とした国際交流を深める予定です．日本の国際的な地位をさらに高めていけるよう，国際委員会を中心に活動する予定ですので，宜しくご協力頂けるようお願い申し上げます．

順天堂大学　黒　澤　　尚
（メンバーシップ委員会 担当）

青木新理事長から，１）現在の会員システムと会員資格などを検討する委員会，および２）そのための会則や諸規定の見直しを担当する委員会の設置が提案され，理事会で審議の結果，上記１）の目的のためにこのメンバーシップ委員会が新設されました．

内容は，現在の正会員（医師)，準会員（医師以外)，名誉会員，特別会員（外国人)，臨時会員（学術集会参加のみ)，賛助会員の６種類の会員資格の抜本的見直しです．例えば，学生会員，研修医会員，スポーツ現場のトレーナー，PT，スポーツチームの指導者，学校体育の指導者，等々の会員資格の問題です．この学会は昨今，会員数の伸び悩みや学会活動においての停滞傾向が見受けられます．新たな躍進のためには新しい血（知）を入れることも一つの有力な方法です．学会の内実の向上のために会員諸氏の積極的なご意見，提案を寄せられることをお待ちしています．

群馬大学大学院　高　岸　憲　二
（会則等検討委員会 担当）

このたび，理事に就任いたしました群馬大学整形外科の高岸憲二でございます．伝統ある本学会の理事に選ばれ，身が引き締まる思いです．昨年の理事会で入会システムの変更等により予想される会則や諸規定の見直しを担当する会則等検討委員会を新設する事が決定されましたが，私が担当理事をすることになりました．諸先輩のご助言とご指導を仰ぎながら，任務を全う致す所存です．

私個人は肩関節疾患を中心に診療しておりますが，群馬大学整形外科教室としては群馬県高野連のメディカルチェックやＪ２リーグで今話題のザスパ草津のチームドクターをしています．実践しているスポーツは，テニスと水泳です．ゴルフも手を染め始めた矢先，肩を痛めて東海大学名誉教授福田宏明先生に手術をしていただき，肩はすっかりよくなったのですが，暫く中断しております．

本学会の発展に少しでも貢献できますよう努力する所存ですので，何卒宜しくお願い申し上げます．

慶應義塾大学　竹　田　　毅
（編集委員会 担当）

我が国のスポーツ整形外科の中核をなす日本整形外科スポーツ医学会の要職である理事に選任され，その責務の大きさを痛感しております．

そこで，新理事として一言所感を述べさせていただきます．

近年我が国のスポーツ医学は，日本医師会による健康スポーツ医認定制度のもと，糖尿病・高脂血症など一部の生活習慣病に対する運動療法の保健点数が設定されたこともあって，徐々にではありますが，その存在が認識されつつあります．この期をとらえて本学会が，立ち後れている感すらある整形外科領域のスポーツ医療についても，公的に認知させるような施策を推進することが必須であろうと考えます．学会の理事の任務は数多くあるものと承知しておりますが，このことを一義として微力を尽くす所存でございます．

なお私は今回編集委員会担当理事の役目を仰せつかりましたが，最近学会誌への投稿（特に英文）が激減し，大きな問題となっております．この場を借りて会員の皆様の多数のご投稿をお願いすると同時に，投稿を増やすためのご提言をお待ち致しております．会員の皆様のご指導・ご協力・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます．

山梨大学大学院　浜　田　良　機

**―学会の活性化にむけて―**

スポーツによる外傷・障害の予防法や治療技術の進歩には目覚しいものがあって競技力向上にも貢献している．しかしその対象は，日本あるいは地域でもトップクラスの選手で，一般社会人や大学・高校のクラブ活動レベルの選手への恩恵は少なく，そのレベルの選手の多くが接骨院や鍼灸による治療を受けているのが現状である．その原因としては，一般のスポーツ医の日常診療の多忙さや，現場への出向・治療が保険診療の対象とならないこと，さらには業績において社会的貢献としての評価が低いことなどが要因となって，現場に足を運ぶ医師が多くない点があげられる．この解決策の一つとして，各地域での医師と理学療法士や看護師など，法律的に医師の指導の元で医療活動ができる，あるいは医師と選手の間の適切なパイプ役となりうるパラメディカルと提携した活動がある．そのために日本整形外科スポーツ医学会は，理事や各地区の評議員のパラメディカルをも組み込んだ地域の医学会組織の設立に向けた活動を積極的に促進する必要がある．この活動は，学術集会への参加者の増加など今後の学会の発展に寄与すると考えている．

早稲田大学　福　林　　徹
（学術検討委員会 担当）

この度新理事として学術検討委員会担当を拝命しました福林です．

長寿高齢化時代を迎えてスポーツは一部競技者のみのものでなく，QOL を向上し，寿命の延伸をはかるものとして非常に重要視されてきております．その中にあり日本整形外科スポーツ医学会は日本のスポーツ医学を整形外科の面から推進する非常に重要な学会と考えております．21世紀のスポーツ整形外科はスポーツ選手に対する手術的治療のみに偏ることなく，予防からリハビリテーション，さらにはスポーツ愛好家への啓蒙をふくめた幅広い分野を取り扱うべきです．特に学術検討委員会は今後のスポーツ整形外科の進む道筋をつける委員会であると思います．来年，再来年と本学会は関節鏡学会，膝学会との協同開催が予定されており，その中で本学会がどのような役割分担を果たすべきかは，本委員会が会員の皆様と考えて行かなくてはならない緊急の問題であります．理事就任以来まだ学術検討委員会を開いておりませんが今後早急に委員会を開催し，本委員会が抱える諸問題につき検討をしていく所存でございます．ご指導のほど宜しくお願い致します．

浜松大学（健康プロデュース学部）　藤　澤　幸　三
（広報委員会 担当）

今回の改選で全員が交代時期でしたが，活動の継続性，さらなる発展を考慮して，田中寿一前委員長はアドバイサーとして，また委員長として酒井宏哉先生にお願いしました．

尚，青木正人新理事長から，今までの活動の継続の他に，日本整形外科スポーツ医学会としてスポーツ医科学知識のスポーツ現場への啓蒙，都道府県の体育協会との連携活動などに取り組むように指示がありました．酒井委員長のもと今まで 2 回の委員会を開催しました．

**①インターネットホームページの作成，更新**
（継続事業）

**②ニュースレター発行**　（継続事業）

**③患者説明用パンフレット作成**　（継続事業）

「反復性肩関節脱臼」「疲労骨折」について原案を検討し修正を加えながら委員会の責任において発行を進めている．今後のテーマについては会員の皆様の希望，ご意見をお待ちしています．

**④グッズ**　（継続事業）

ネクタイ，プレート，ゴルフキャップなどが候補に上げられ，担当委員を選出，次回までに原案を提出してもらうことで一致しました．

**⑤地域団体との連携活動**　（新規事業）

青木新理事長の新規事業の目玉として，地域団体へのスポーツ医科学知識の啓蒙，連携がとりあげられた．丁度今年度から日本医師会，文科省などが学校医の組織の中にスポーツ活動との関係が深い運動器疾患を対象とする診療科つまり整形外科医の参入，活動を要望する気運が出てきたこともあり，広報委員会は新規事業として積極的に取り組んでいきます．現在まだ資料収集段階です．

**⑥患者説明用パンフレットの活用方法について**（新規事業）

18年度西日本医学生体育大会主管校である名市大，大塚委員からの申し入れがあり，大会プログラムの中に日本整形外科スポーツ医学会広報活動の一つとして患者説明用のパンフレットを掲載したい旨申し入れがあり委員会としては異論がなくむしろ東日本医学生体育大会のパンフレットにも掲載をお願いしてはとの意見があった．

東京大学大学院　武　藤　芳　照
（教育研修委員会 担当）

本委員会は，学会による社会への「教育」活動に重点を置くという基本方針の下，次代を担う大学生・高校生等を主に対象とした「大学生・高校生のためのスポーツ医学セミナー」を開催してきた（2002年７月札幌市，2003年８月福岡市，2004年８月大阪市）．また，それらの講演内容等を基礎に，講師陣及び教育研修委員を中心として『大学生・高校生のための現場のスポーツ医学入門』の小冊子を刊行して，全国に無料配布し，一層正しい知識の普及・啓発に尽力してきた．

セミナーと冊子刊行については，大塚製薬㈱及び「運動器の10年」日本委員会の格別のご協力をいただいている．

平成17(2005)年には，新潟大学遠藤直人教授のご協力・ご支援により，８月20日(土)に新潟市においてセミナーを開催する準備を進めている．先般の役員の交替に伴い，新編成された教育研修委員会のメンバーとしての初回の事業となる．

また，青木治人理事長からは，今年度からは学会員への教育研修についても積極的に取り組むようにとのご指示をいただいており，これについては，日本整形外科学会スポーツ委員会，日本臨床整形外科医会スポーツ委員会等とも緊密な連携を取って，効果的で実りある事業の計画をしていきたいと考えている．

会員各位の一層のご理解・ご支援をお願いする次第です．

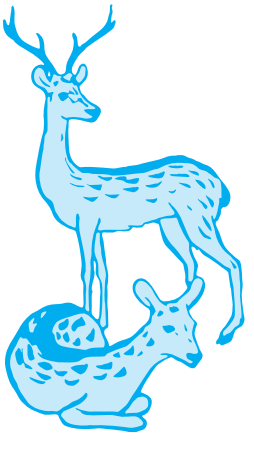
---

日本大学　龍　　順之助
（社会保険委員会 担当）

このたび，可能な限り本学会を fair に運営すること，及び学会のさらなる発展を目指し，理事の推薦をお引き受けさせていただきました．

私は，平成15年４月より平成17年３月まで，日本整形外科学会スポーツ委員会担当理事を受け持っておりました．日本整形外科学会認定スポーツ医と本学会会員とは，オーバーラップすることが多く，何らかの共同のつながりを見つけたいと常々思っていました．本学会と日本整形外科学会認定スポーツ医との関連を強化する目的も理事をお引き受けする一つの要素でした．その一つの試みとして，本年７月３日(日)，本学会学術集会の翌日に高倉義典会長のご協力により，奈良にて「日整会認定スポーツ医資格取得のための研修会」を開催することができました．

本学会は，社会保険点数の改善組織である外科系保険連合（外保連）に所属している学会で，外保連に４名の委員を送っています．スポーツ関係の社会保険上の新設項目の設定，改革項目の選定を積極的に行い，スポーツにおける社会保険の設定を目指し，本学会社会保険担当理事として，役目を果たしたいと考えています．



## ■第５回大学生・高校生のためのスポーツ医学セミナー開催のお知らせ■

入場
無料

主　　催　日本整形外科スポーツ医学会
主　　管　日本整形外科スポーツ医学会教育研修委員会，新潟大学医学部整形外科学教室
後　　援　新潟大学，文部科学省，新潟日報社，大塚製薬㈱
協　　力　「運動器の10年」日本委員会
日　　時：平成17年８月20日（土）　13:30〜18:00
会　　場：新潟市民プラザ(http://www.ryutopia.or.jp/plaza/home.htm)
　　新潟市西堀通６番町866番地　NEXT21ビル６階　TEL 025-226-5500(代)
参加資格：大学生・高校生を主な対象としていますが，一般市民の参加も可能です。
申込方法：ホームページから(http://jossm.gr.jp/)からお申し込みください。
　　※なお，先着300名で締め切らせていただきます。
　　※クラブ単位での参加も大歓迎です。責任者の方の連絡先を必ずお知らせください。
申込締切：平成17年８月10日（水）（消印有効）
申 込 先：日本整形外科スポーツ医学会事務局内「第５回スポーツ医学セミナー」係
　　〒468-0063　名古屋市天白区音聞山 1013　有限会社ヒズ・ブレイン内
　　TEL 052-836-3511 / FAX 052-836-3510　e-mail: gakusei@jossm.gr.jp

## プログラム

13:30　開会の辞　青木　治人（日本整形外科スポーツ医学会理事長，聖マリアンナ医科大学学長）
　　歓迎の挨拶　遠藤　直人（新潟大学整形外科教授）

### 第１部　司会・進行：武藤　芳照（日本整形外科スポーツ医学会教育研修委員会担当理事，東京大学身体教育学講座教授）

13:40〜14:00　1. まちがったトレーニング
　　柏口　新二（国立療養所徳島病院整形外科／徳島県鳴島町）
14:00〜14:20　2. スポーツ現場の応急処置 —まちがった方法と正しい方法—
　　山田　　均（高岡市民病院整形外科／富山県高岡市）
14:20〜14:40　3. サッカーのケガ・故障の特徴と予防
　　大森　　豪（新潟大学超域研究機構／新潟市）
14:40〜15:00　4. オリンピック・チームドクターの活動 —現場での選手の健康管理—
　　小山　　郁（講道館クリニック／東京）
15:00〜15:20　質疑
（休憩20分）

### 第２部　司会・進行：遠藤　直人（新潟大学医学部整形外科学教授）

15:40〜16:00　5. テーピングとストレッチングの実際
　　栗山　節郎（日本鋼管病院整形外科／川崎市）
16:00〜16:20　6. スポーツによるケガ・故障のリハビリテーション
　　水田　博志（熊本大学整形外科／熊本市）
16:20〜16:40　7. 身体障害者のスポーツ医学
　　大久保　衛（びわこ成蹊スポーツ大学／滋賀県滋賀郡）
16:40〜17:00　8. スポーツ診療の実際
　　岡崎　壮之（九十九里ホーム病院／千葉県八日市場市）
17:00〜17:20　質疑
（準備５分）

### 第３部　司会・進行：武藤　芳照・遠藤　直人

17:25〜17:50　総合討論・質疑　　講師全員，日本整形外科スポーツ医学会教育研修委員
17:50〜18:00　閉会の辞
　　セミナー修了証の授与
18:15〜19:30　参加者全員交流会 (会場：市民プラザ内)

※都合により、講師・内容が変更されることがあります。

## ■第32回日本整形外科スポーツ医学会・第８回日韓整形外科スポーツ医学会開催のお知らせ■

会　期：2006年６月８日(木)〜10日(土)
会　場：沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）

第31回日本膝関節学会，第32回日本関節鏡学会（いずれも黒坂昌弘会長）と合同開催いたします．詳細は改めてお知らせいたしますが，多数の演題のご応募，ご参加をお願い申し上げます．

第32回日本整形外科スポーツ医学会
第８回日韓整形外科スポーツ医学会
会 長　岡　崎　壮　之
（九十九里ホーム病院　院長）

### 編集後記

青木新理事長の元，新しい理事も決まり新体制になり，これからの日本整形外科スポーツ医学会の発展が期待される所であります．そこで今回のニュースレターは新理事長と理事の皆様方に，会員の皆様へのご挨拶と今後の日本整形外科スポーツ医学会に対する抱負をお聞きし掲載させていただきました．

また高倉義典教授から，第31回日本整形外科スポーツ医学会学術集会について本レター巻頭言にご寄稿いただきました．その中に『今回の学会は近来にない多数の演題の応募があり，抄録集が厚くなり持ち運びに不便』との喜ばしい記載がありました．多くの先生方が学会に参加していただき，大いに学会を盛り上げて下さる事を祈念いたしまして，本レターの編集後記とさせていただきます．（大塚　隆信）

日本整形外科スポーツ医学会　ニュースレター No.6　2005年６月15日発行

編　集：日本整形外科スポーツ医学会広報委員会
藤澤　幸三(担当理事)，酒井　宏哉(委員長)，田中　寿一(アドバイザー)
今井　立史，大塚　隆信，川上　照彦，筒井　廣明，中山正一郎

発　行：日本整形外科スポーツ医学会
〒468-0063 名古屋市天白区音聞山 1013 有限会社ヒズ・ブレイン内
TEL 052-836-3511 / FAX 052-836-3510
e-mail info@jossm.gr.jp　URL http://jossm.gr.jp